

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成24年6月14日(2012.6.14)

【公開番号】特開2009-270111(P2009-270111A)

【公開日】平成21年11月19日(2009.11.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-046

【出願番号】特願2009-113112(P2009-113112)

【国際特許分類】

C 09 J 133/06 (2006.01)

B 41 N 6/02 (2006.01)

B 41 N 6/00 (2006.01)

B 41 F 27/06 (2006.01)

C 09 J 11/08 (2006.01)

C 09 J 11/06 (2006.01)

C 09 J 7/02 (2006.01)

【F I】

C 09 J 133/06

B 41 N 6/02

B 41 N 6/00

B 41 F 27/06

C 09 J 11/08

C 09 J 11/06

C 09 J 7/02

Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月23日(2012.4.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

ガラス温度は準静的方法、例えば示差走査熱量測定(DSC)の結果として示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

架橋剤(成分B)としては本発明に従って金属キレート、例えばアルミニウム-又はチタンキレート、多官能性イソシアネート、多官能性アミン、多官能性アルコール又は多官能性エポキシドが明らかに適している。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

有利に使用される架橋剤の初期質量 m_v は、ポリマー成分の初期質量 m_p 及びその数平

均分子量 $M_{n,p}$ から、挿入される相応規定数値によって次のように決められる：

$$m_V = \frac{V \cdot m_p \cdot M_V}{M_{n,p} \cdot f}$$

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0047】

この方法は、基礎となるモノマーを含むモノマー混合物の重合（ポリマー成分A1）及び < 5 及び > 10 のグラフト活性を有する少なくとも2種類の熱分解性開始剤の使用下に製造するための重合法を包含し、その際に < 5 で最初に線重合を行いそして次に > 10 でグラフト重合体を製造する。続く段階において、架橋剤の添加下に架橋反応を前述の量で実施するのが有利である。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

この場合に、初めに使用される開始剤は、ポリマー中で側鎖を形成する傾向が小さく、そのグラフト活性が開始剤を添加するときの反応混合物の温度において < 5 の値より下にあるように選択するのが有利である。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0088

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0088】

印刷版の貼り付け及び適用：

110mmの直径を有する鋼鉄製胴の上に、市販の接着剤（図1の層9）を有する上記の両面感圧接着テープを貼り付ける。2.54mmの厚さのDuPont Cyrel HOS社の印刷版を試験すべき接着剤（本発明の実施例或いは比較例；図1の層3）に貼り付ける。印刷版の貼り付いた鋼鉄製胴を次いで印刷機械に据付、150μmの印刷設定で16時間印刷する。